

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年3月18日
市立札幌大通高等学校

本校の重点目標

- (1) 自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる生徒を育てる。
- (2) 意欲・熱意を持って主体的に学習し、興味・関心を深く探究する生徒を育てる。
- (3) 主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越える逞しい生徒を育てる。
- (4) 規範意識を身につけ、勤労を尊ぶ、有為な社会人として自立していける生徒を育てる。
- (5) 多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる。

本校の経営方針

教職員は情熱を持ち、信頼される教育者としての使命を自覚し、各種研鑽に努めるとともに、次のことを考慮した経営体制を整える。

- (1) ガイダンス機能を充実させ、HR複数担任制や小グループ担任制をとる。
- (2) スクールカウンセラーの配置と各種相談体制を整える。
- (3) インターンシップ等を積極的に導入する。
- (4) 学校行事・部活動等は、三部合同を基本とし、共通の活動時間を確保する。
- (5) 教育関連施設や家庭・地域等と連携し、双方向の協力体制を確立する。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活を送ることができている。 ・高校入学前と比べて、友人関係の広がりや活動の変化、人間的な成長を感じる。 	A	評価はAとなつてはいるが、「大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活をおくることができている」と答えた生徒が17%いる。その生徒たちにはしっかりと目を向け、個別面談を行うなど生徒に寄り添った支援をする中で、次年度は10%未満に抑えたい。	A	A
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して通える学校づくりは、大通高校の最大の役割だと思います。引き続きよろしく申し上げます。 ・様々なことを学び、将来を考える場としての「学校」は、生徒にとってかけがえのない居場所である。大通高校が他校と違う存在意義から見ても重視していく評価項目なので、深く分析できるような工夫を期待します。 ・これからも引き続き、生徒・保護者にとって安心して学校生活を送ることができる学校であることを、大いに希望します。 ・本校の生徒に対するケア体制は、他校と比較し、整備されていると思う。しかし、期待度が高くなりすぎると、そこでギャップが発生してしまうので、家庭での役割も明確にし、両極で対応する体制を整える必要があると思う。 ・多くの教師の方々は、本校の理念を理解し、熱心に指導して下さっていますが、一部の教師の方は、理解されていないと思う。その温度差が気になります。 			
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、授業に出るのが楽しみで、わかり易い授業が多く、授業内容を理解している。 	B	「わかりやすい授業が多い」と答えた生徒は78%いるが、「多くの生徒が授業内容を理解している」と答えた教員は50%であり、生徒と教員の認識の違いがみられる。また、学び直しを期待する保護者から、高い学力を期待する保護者までいる。基礎基本を定着させながら、進路希望に対応できる学力も身につけられるよう、授業改善に取り組む。	B	B

<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高い学力イコール大学入試に役立つ知識ではありません。生徒がこの先も「学ぶ」ことをポジティブに捉えられるように、「分かる喜び」を伝えて行ってください。 ・学ぶ喜び、充実感、手応えを得られることが大切と考える。生徒、保護者、教職員の評価が割れていることをどうとらえるべきか？！ ・学習に対する生徒の満足度と保護者、教員との意識のズレが気になります。設問のスタイルも再考する必要があるかと思えます。 ・午前部イコール進学希望が多いというイメージが定着しつつあると思います。学習意欲のある生徒と基礎を学び直す生徒を一緒にするのはではなく、ある程度、学力にあわせて授業を分ける事が必要だと思う。 				
<p>キャリア・進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が色々な社会体験(ボランティア、職場体験等)をする機会を増やし、仕事や社会の仕組みについて学ぶ機会が多い。 ・「キャリア基礎」「キャリア探究」など、本校のキャリア教育の内容を理解している。 ・授業や学校行事で聞いた、進路についての話を参考にしている。 	<p>B</p>	<p>キャリア教育については、「総合的な探究の時間」や「キャリア探究」等の学校設定科目を設置して取り組んでいる。しかしながらキャリア教育に関する学校設定科目を積極的に履修している生徒は一部の生徒に限られている。生徒のキャリア教育への意識をさらに高めていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミツバチプロジェクトやプレゼン大会など、大通高校での体験全てがキャリア探究につながっており、A評価が妥当。 ・多くの生徒の関心が向いていることがうかがえる。しかし、一歩行動に踏み出せない生徒への指導の難しさを感じるが、粘り強く策を練って頂きたい。 ・現役の社会人と接する機会をさらに増やす工夫が必要だと思う。 				
<p>多様な支援と外部連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で気軽に先生方と関わることができる。また、スクールカウンセラーなど、外部の人たちと接する機会が多い。 ・保護者や外部の人々が、学校運営に参加する仕組みがある。 ・さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対する、サポート体制がある。また、教員間で、情報交換がおこなわれている。 	<p>B</p>	<p>ドリープレイスや外部講師を招いての多くの取組を行っているが、58%の生徒が教員以外の外部の人たちと接する機会が多いとは思わないと答えている。また、保護者や外部の人たちが学校の運営に参加する仕組みがあると答えた保護者の割合は60%と決して高くはない。学校としての様々な取組が理解されていないので、具体的な取組や外部の方たちとの関わりについて、積極的に発信していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部と接する機会は、ただ多ければよいというわけではないので「必要な生徒が、必要な時に、必要な人と」出会えるようにコーディネートをお願いします。 ・本当に多種多様な支援が求められ、解決まで長い時間が必要である。学校は常に真摯に取り組んでいて、頭が下がる思いである。 ・入学時に、大通高校のバラエティに富んだ教育、学ぶスタイルの普及が大切だと思います。 ・教師がさらに、外部の人達との接する機会の重要性を理解することが必要だと思います。 				
<p>生徒指導・特別教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生以外のスタッフ(カウンセラーやボランティア等)と関わる機会を多く持たせている。さらに充実させる。 ・困った時や悩み事があるときに、相談できる大人がいる。 ・生徒の人間的な成長を感じる。 	<p>B</p>	<p>39%の生徒が自分の周りには、困ったことや悩み事があるときに相談できる大人がいないと答えている。本校の相談支援体制にのらない生徒がいるという事実をしっかり目を向け、その原因をあきらかにして、具体的な対策を講じたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく進学校であれば、相談できる大人がいる割合はもっと高まるが、そのほとんどは親である。「親に頼れない。」「大人に不信感がある。」そう言った生徒にこれからも向き合っていただくようお願いします。 ・今後も改善に力を尽くして頂きたい。 ・全体的な印象ですが、大通高校でしかできないこと、他校ではここまで充実したサポート体制はないことなど、特徴をより整理して、生徒・保護者・教員の連携感を強めてはと思います。 ・ドリープレイス等を有効に活用していく必要があると思う。 				
<p>大通高校として評価を受けて今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A評価の項目については、今後も実践を継続していくべきだと考える。昨年に引き続きB評価となった「学習」「キャリア・進路指導」については、三者の評価が異なっていることから、それぞれの要望を整理しながら改善に取り組む。同じく「多様な支援と外部連携」「生徒指導・特別活動」については、全ての生徒・保護者に周知できるように情報発信方法を含め、改善に取り組む。 				

<評価> A:よく達成されている B:ほぼ達成されているが改善も必要 C:不十分である